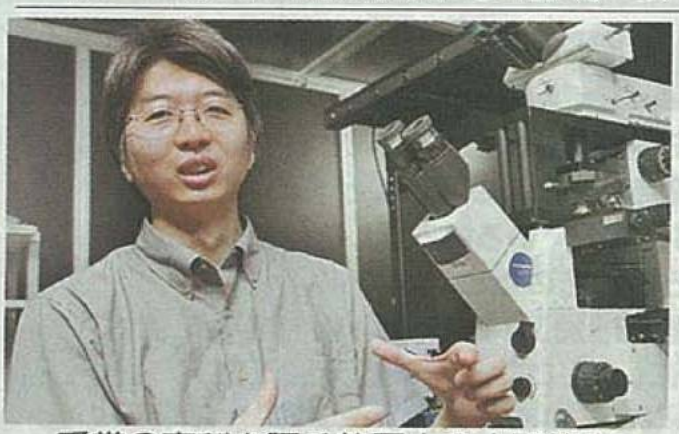
2009年6月30日　中日新聞朝刊＊）

金属レンズ可能性評価

安藤学術奨励賞　小野さん（静岡大特任助教）受賞

静岡大学電子工学研究所の小野篤史特任助教（三〇）が、電子工学の分野で独創的な研究成果を挙げたとして、安藤研究所（東京都）が主催する「安藤博記念学術奨励賞」を受賞した。受賞テーマは金属を用いたレンズの研究で、分野によっては既存のレンズに置き換わる可能性を秘めているという。

このレンズは、直径二十ナノメートル（一ナノメートルは一ミリの百万分の一）ほどの円筒形のごく細い金属（銀など）の束。束ねた金属の一端に映し出そうとする物があると、その光の振動に、金属の中にある自由電子が呼応して揺れ動き、金属のもう一方の端に画像が映し出される。金属の束の面をわん曲させることで、画像を拡大することができ、微細な物が肉眼で見えるようにもなるという。



受賞の喜びを語る静岡大の小野篤史特任助教＝浜松市中区の静岡大で

五百ナノメートルより小さい物の場合、顕微鏡に使われている既存のプラスチックやガラスのレンズでは輪郭がぼやけるが、金属のレンズだと鮮明に映し出すことができる。このため、生物工学や半導体製造などの分野への応用が期待できるという。

研究はまだコンピューターでのシミュレーションの段階だが、小野特任助教は「誉れ高い賞を受賞できて光栄に思う。今後も研究にまい進していきたい」と喜びを口にした。

（出来田敬司）

＊）この記事・写真等は、中日新聞の許諾を得て転載しています。